

令和8年度 調布市立杉森小学校 学校経営計画 (校長 野口 直也)

学校の教育目標		
○思いやり助け合う子ども【相手意識・感謝の心】○自ら考え進んで学ぶ子ども【主体性】○元気で丈夫な子ども【心身の健康・自己指導能力】		
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像		
<p>目指す学校像 【子どもたち一人一人を大切にできる学校】</p> <p>(1) 児童 自分たちで考え、自分たちで決定し、自分たちで学校生活を創り上げる子ども (自己選択、自己決定、自己実現) ・自分から主体的に行動する子ども ・相手意識、感謝の気持ちを大切にできる子ども ・心も身体も健康な子ども</p> <p>(2) 保護者、地域 「安心して任せられるみんなの学校」 ・開かれた学校 (教育活動の積極的な発信) ・安心できる学校 (学年担任制) ・みんなの学校 (CS としてみんなが当事者意識)</p> <p>(3) 教職員 「自己実現できる職場」 ・明るく信頼し合える職場 ・やりがいを感じられる職場 ・互いに成長できる職場</p>		
<p>ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)</p>	<p>○令和6・7年度に学年担任制を導入・徹底したことで、学習環境・学習規律が整った。一方で、児童の「主体性」においては課題が残されている。今年度は「主体性の育成」を最上位目標とする段階ととらえ、めざす児童像を共有し、学校の取組を推進していく。</p> <p>○個別の支援を必要とする児童や、不登校及び不登校傾向のある児童がここ数年増加傾向にある。学年担任を中心としながら全教職員で子どもたち一人一人に寄り添い、コミュニティスクールの強みを生かして関係諸機関と連携した組織的な対応を進める。</p> <p>○全教職員が、教育に関わる仕事に誇りをもてるよう、やりがいを感じられるような職場にする。そのためにも、校内研究や様々な研修、日々のOJT等を通して、教職員の間力、指導力を向上させる。</p>	
中期的な経営目標		
<p>◎学年担任制 (学年内教科等担任制+学級活動・給食ローテーション) を実施することで、子どものよさをみんなで見取り、課題を共有し、教育目標の達成に向けて同一歩調で全教育活動を連動させる。</p> <p>① (徳) ・相手意識と感謝の心を持ち、発言や行動ができる児童の育成 ・「いじめは絶対にしてはならない」という意識の醸成</p> <p>② (知) ・学習・生活全ての場面で主体的に活動する児童の育成 ・ICTを活用した協働的な学びの充実</p> <p>③ (体) ・学校生活と運動・運動遊びに安心して参加する児童の育成 ・給食・特別活動を中心に、感謝の気持ちを伝える取組の推進</p> <p>④ (基盤) ・整った学習環境・学習規律の基盤となる挨拶・話の聞き方ができる児童</p> <p>⑤ (基盤) ・知・徳・体の基礎となる食育の充実を通して、相手意識・感謝の心を持ち、給食時間におけるマナーある行動に主体的に取り組むとともに、自らのよりよい健康のために食事をすることができる児童の育成</p> <p>⑥ (広報) ・学校として児童に身に付けさせたい資質・能力、学校での学習内容・学校生活等を、積極的に保護者・地域等に広め、理解やボランティア活動等での協力を得ることで、教育活動のさらなる充実を図る (学校だより、保護者会、HP等)</p>		
調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
① 道徳の時間を核とした「いじめはぜったいにしてはならない」意識の醸成 組織的ないじめ防止対策の徹底	① ICTを活用した協働的な学びの充実	① 食育(給食・保健・家庭科)による、食を通じた健康な体づくりの推進
② 子どもたち自らが創り上げる特別活動・学校行事の推進	② 主体性の育成を図る授業改善の推進	② 体力向上に資するスポフェス・縄跳び週間・チョコプラ1調布の取組
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
① 生活アンケート「いじめをしてはならない」肯定的回答100%	① 児童アンケート「ICTを活用し友達と伝えあって学習している」肯定的回答80%	① 食育アンケート「給食は栄養のバランスを考えて食べようと思う」肯定的回答95%
② 児童アンケート「学校行事の話合いに参加できた」肯定的回答95%	② 児童アンケート「授業では、自分で考え、自分から取り組んでいた」肯定的回答80%	② 児童アンケート「運動に親しむことができた」肯定的回答90%
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>		
4 学習環境・学習規律の基盤整備	5 食育の充実	6 広報活動の充実
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
① 感謝の心を伴った挨拶の徹底 (先言後礼・おじぎ5秒・日常の挨拶)	① 食育の視点を明確にした給食の授業化	① 学校だより、保護者会、ホームページなどを活用し、学校の育成したい資質・能力とそのため の取組を計画的に発信
② 授業中の話の聞き方指導の徹底	② 相手意識をもった食事や片付けのマナーの 継続指導	② 通知表所見を、学校の育成したい資質・能力ベ ースで作成し、成果を報告
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
① 児童アンケート「挨拶ができる」肯定的回 答95%	① 食育アンケート「食材や食文化に興味・関心 をもっている」肯定的回答80%	① 保護者アンケート「育成したい資質・能力を知 っている」肯定的回答80%
② 児童アンケート「先生や友達の話聞いて いる」肯定的回答90%	② 食育アンケート「給食では食事のマナーを 意識している」肯定的回答95%	② 保護者アンケート「学校が児童の主体性の育成 に取り組んでいることを知っている」 肯定的回答80%
人材育成・組織運営		
<p>◎教科担任制に加え朝・帰りの会や給食指導も学年の担任がローテーションする体制をとる。このことを通して、OJTによる人材育成およびめざす児童像に迫るための組織運営を行う。具体的に、以下のことを行う。</p> <p>1) 若手教員を中心に抱える指導上の課題を中堅・ベテラン教員がフォローし、学習環境・学習規律の質の向上を図るとともに、資質・能力の育成に向けた学校としての取組を同一歩調で推進する。合わせて、いじめ対策や特別支援教育、教科担任会や教科別の校内研究会進める中で若手教員の授業力(統率力・児童理解・指導技術)を育成する。</p> <p>2) 教員全体の指導力の向上を図るために、計画的に教科指導、特別支援教育、アンガーマネジメント等の外部講師を招く。</p> <p>3) 学校の方針に基づく取組について、主幹教諭をリーダーとしてPDCAサイクルにのせて推進し、常に質の維持・向上を図る。この取組を通して、主幹教諭には管理職の、学年主任・分掌主任には4級職の資質・能力が身に付けられるようにする。</p> <p>4) すべての取組について、教員が一人一人で抱え込むことなく組織的に対応することをベースとし、徹底する。また、各取組を組織的に進めることを保護者に積極的に発信し、保護者の学校教育に対する信頼を得る。</p>		